

中国海軍ニュース：
ワリヤグ空母は最終艤装段階にある
漢和防務評論 20110518

KDR ランゲーン特電：

2011 年 3 月 25 日に公開された大連のワリヤグ空母の写真を見ると、上層建造物は、すでに過去 2 週間にわたって吹き付け塗装を行っており、全部で 7 個のレドームの取付けを終了した。アクティブ・フェーズド・アレイ・レーダーは、未だ取付けられていない。残りは少なくとも 3 個の電子機器及びレーダーの取付台であり、最後の取り付け工事が残っている。このようにワリヤグの艤装工事は最終段階にあると判定できる。

第一段階で行われる海上試験は、2011 年下半期に開始される可能性がある。主要な試験は、船体の動力システム試験であり、これは極めて重要である。第二段階の試験は、電子機器、レーダーの試験であり、特に電波干渉の問題の有無を確認することである。第三段階の試験は、武器の試験である。防空武器として、すでに TYPE 730、FL3000 が取付けられた。これらの武器は、搭載する前に個別に試験する必要がある。艦対艦ミサイルは、搭載されるかどうか現在是不明である。少なくともランチャーは確認されていない。

KDR は、海上試験に 1 乃至 2 年かかると判断している。2013 年前後に、船体、電子機器、レーダー、武器システムの全ての試験が終了し、艦載機 J-15 の試験飛行も始まるであろう。2013 年、2014 年以降、J-15 は、ワリヤグ艦上で試験飛行が出来るようになるであろう。

船体の塗装作業は、数年前に行われた。現在、艦橋と船体の塗装の色が異なっている。したがって大連造船所は船体を再塗装するかもしれない。

中国は、KA-31 型早期警戒ヘリを受領
漢和防務評論 20110518

漢和バンガロール特電：

カモフ (KAMOV) 航空機会社の権威筋は、KDR に対して次のように述べた。すなわち「同社は、2010 年、中国に対し 5 機の KA-31 型早期警戒ヘリ (EARLY WARNING HELICOPTER) を提供した。また 2011 年 3 月までに残りの 3 機を提供する予定で全部で 9 機の KA-31 を提供することになる。この契約は 2007

年に締結されたものである」と。また同権威筋は、「中国の KA-31 とインド海軍の KA-31 は、通信システムが一部異なっている。レーダーは、両者同じである。その他の性能も基本的に同じである」と述べた。

また同権威筋は、「カモフ航空機会社は、中国の Z-10 型武装ヘリ開発を全面的に支援している。”我々は、10 年前に連合設計グループを成立させ、約 2 年間にわたり中国の武装ヘリ開発を支援した。現在我々は、Z-10 型武装ヘリがカモフの設計技術を多く取り入れたと見ている。当初ロシアは、中国に対し KV-2500 型ガスタービン・エンジンを使用するよう提案した。しかし Z-10 は、小型の武装ヘリのようなものである。カモフ 52 型の重量は標準で 13 トン、Z-10 の 2 倍以上あるようだ」と述べた。これは、カモフ航空機会社の権威筋から入手した”中国は Z-10 武装ヘリの設計にカモフの技術を利用した”との最初の情報である。しかもカモフ航空機会社は、中国の武装ヘリ開発を全面的に支援している。

同権威筋は、Z-10 の写真を分析し、同型機のステルス性とレーダー及び赤外線に対抗するステルス塗料に注目した。

また同権威筋は、「カモフ航空機会社が設計した KA-52 型早期警戒ヘリは、世界で初めて射出座席を採用した武装ヘリである。最初にローターを射出し、その後 2 人用の座席を速やかに射出する。その間隔は 1 秒以内である。この技術は Z-10 には使用されていない」と述べた。

以上